



1. 商売繁盛、五穀豊穰、無病息災を祈り、男たちが大つつこを持ち上げる / 2. 子ども綱引き大会では、子どもたちも大人に負けない気迫を見せた / 3. 本殿で巫女舞を行った女の子たちが、パレードにも参加 / 4. ふんどしを締めた男たちが一目散に突っ走る一番乗り競争

「5年ぶりの気迫、商店街に」

3月3日㊤、伊達市保原町の巖島神社で「つつこ引き祭り」が行われました。福島県の10大奇祭にも選ばれるこの祭り。4丁目交差点付近を閉鎖し、商店街でつつこと呼ばれる大俵を引くのは5年ぶり。下帯姿の若衆が3組に分かれ、「わっしょい！」と威勢の良い掛け声とともに、もち米の入った重さ800キロの大つつこを引き合いました。つつこ引き祭りは江戸時代中期に始まったとされ、五穀豊穰や家内安全を祈る祭りとして地域に受け継がれてきました。つつこ引き祭り実行委員長の水口照章みずぐちのあきさんは「みなさんの支えがあって活気あるお祭りを行うことができました。今後も伝統の祭りを次世代につないでいきたいです」と話しました。



市長コラム 第64回
きたばたけあきいえ
北畠顕家公

テレビアニメに登場!」
須田博行

北畠顕家公といえば、南北朝時代に霊山に国府を開き、足利尊氏と戦った南朝方の武将です。その顕家公が登場するテレビアニメが今年始まります。

原作は、2021年から週刊少年ジャンプに連載中の「逃げ上手の若君」。大変な人気で、既に14巻まで単行本として発行されています。

単行本を持っている人に全巻を借りて休日を読みました。面白くて時間を忘れて読んでしまいました。

「1333年、御家人である足利尊氏の突然の謀反により鎌倉幕府は滅亡。故郷も家族も全て失い、一人生き残った正統な後継者である少年・北条時行が、幕府再興に向け足利尊氏と戦う」物語です。初めは「逃げ上手」という言葉にどこか違和感がありました。

読み進めるうちに、戦って死ぬことこそが武士の誉れとされた時代に、「死ぬ」ことよりも「生きる」ことの大切さを説いた物語ではないかと思いました。

私たちはこれまで、逃げることは良くないと教えられてきました。でも、じつと耐えた結果、心身を病んでしまっただけは本末転倒です。悩んだときは周りに相談したり、今の環境を変えたりするなど、自分を固定観念から「逃がす」ことも必要ではないでしょうか。

さて、なかなか登場しない北畠顕家公にしびれを切らしていたら、ついに13巻に登場しました。文武に秀で見目麗しい、南朝最強の貴公子。人心をつかむ顕家公の言動に魅せられてしまいました。

北条時行と北畠顕家は、NHKの歴史探訪「南北朝の若君たち」で取り上げられており、今注目を集めている若き武将たちです。また、この物語には、伊達氏7代行朝公も登場します。

放送が始まれば、顕家公、行朝公ゆかりの伊達市を全国に知ってもらえる絶好の機会です。その時を楽しみに今からあらゆる機会を捉え、発信していきたいと思っています。